

本時のねらい

・和語と漢語の違いを理解し、表現することができる。

本時における 1 人 1 台端末の活用方法とそのねらい

・OneNote では、すべての生徒にノートを配付することができ、生徒の書いたことをリアルタイムで見ることができる。それにより、常に生徒の学習進度や、つまづきに気づくことができる。

・書くことが苦手な生徒でも、タブレット PC を使うことで表現がしやすくなる。

・タブレット上では、文字を打つ、消すという動作が簡単に行える。それにより失敗を恐れず様々な表現にチャレンジすることができる。

活用した ICT 機器・デジタル教材・コンテンツ等

・NHK for School

・Teams (OneNote)

本時の展開

学習の流れ	主な学習活動と内容	ICT 活用のポイント・工夫
導入 (10 分)	1. 本時の流れ・本時の目標を確認する。【写真 1】 本時の目標「和語と漢語の違いを理解し、表現に生かそう。」 ・Teams の OneNote で配付されたものを確認する。 ・和語、漢語の知識を発表する。	・Teams の OneNote に教師が事前に添付した問題を見ながら、本時の流れをイメージさせる。
展開 (30 分)	2. NHK for School の『わかる国語・読み書きのツボ・5・6 年』を大型ディスプレイで全員で視聴する。 ・イラストについて考える場面で停止し、OneNote を使って問題を解く。イラストを見て、何の絵が説明する文章を記入する。【写真 2】【写真 3】 3. 和語と漢語の性質を、動画を見て学ぶ。 ・和語と漢語の性質を、OneNote に記入する。	・NHK for school の動画を基に、授業を展開していく。動画では、流れが明確になっているので、今後の展開につなげやすい。 ・教師は生徒が書いている文章をリアルタイムで確認することができ、生徒が書いているものを大型ディスプレイに投影することで、内容を共有できる ・学習した内容を言語化することで、確かな理解につなげる。
まとめ (10 分)	4. 本日の学習した内容の確認で、問題を解く。 ・漢語と和語について口頭で振り返る。 ・音読みと訓読みの問題に答える。	・タブレットは入力方法が選べるので、書くことが苦手な生徒でも、問題への心理的ハードルを下げて前向きに取り組むことができる。

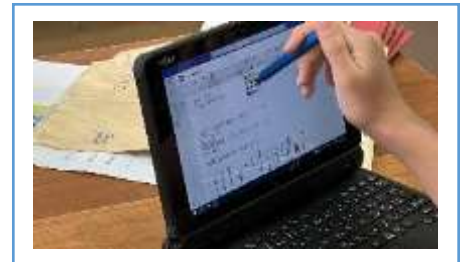
1 人 1 台端末を活用した活動の様子



【写真 1】配信された課題を自身のタブレットで確認する。



【写真 2】劇に関するイラストに合う文章を記入する。



【写真 3】OneNote 上の問題を解き、答え合わせをする。

児童生徒の反応や変容

・学期の始めは、紙面で授業を行っていたが、ICT を用いることで生徒が授業に意欲的になった。入力方法を選べる事、視覚的にとらえることができる事が、意欲的になった要因だと考えられる。

・NHK for School の活用を通じて視覚的に学び、それをアウトプットすることで生徒の学習理解が深まった。

授業者の声～参考にしてほしいポイント～

・NHK for School の動画のように、意図を持って作成された教材を使うことで、授業展開がしやすい。

・OneNote にあらかじめ課題を作成しておくことで、生徒が本時の授業をイメージしやすくなる。